

## 1 受賞団体・個人の名称

ときわむらようけいのうぎょうきょうどうくみあい

常盤村養鶏農業協同組合（青森県南津軽郡藤崎町）

(問い合わせ先)

0172-65-3355

(経歴)

平成19年より採卵鶏飼料の国産自給率向上及び休耕田の有効利用と地域農業の発展を目指し、飼料米生産と飼料米配合飼料の給与を始める。

飼料米を給与した採卵鶏の鶏糞堆肥を飼料米生産に使用することで環境保全と資源循環型農業を行っている。

(受賞時の経営内容)

育成鶏170,000羽、採卵鶏400,000羽、飼料米781ha

## 2 生産面の取組

### ① 環境保全と耕畜連携の取組

養鶏で発生した鶏糞を堆肥化し、飼料米の水田に使用して土づくりを行い、化学肥料を低減している。生産された飼料米を鶏に給与し、耕畜連携を実現している。

### ② 飼料自給率向上の実践

平成19年に3戸の農家の協力を得て飼料米生産をスタート。当初は玄米配合飼料を給与したが、平成20年に飼料の給与形態を玄米から粳米へ変更し作業を効率化。飼料米の生産戸数と給与羽数の増加につなげた。

### ③ 新たな技術の実証・普及

研究機関や大学等と連携し、飼料米専用種の栽培技術実証や採卵鶏と鶏卵への飼料米給与の影響等について試験し、技術の改善を行ってきた。

平成20年に飼料米生産者と利用者等関係者を構成員とする「飼料米生産者協議会」を設立し、飼料米の利活用をモデル的に実証し、近隣市町村等への普及拡大を図ってきた。



### ④ その他環境にやさしい技術の導入

平成6年からBMW(バクテリアミネラルウォーター)技術を導入し、養鶏で発生する汚水を浄化し鶏舎の洗浄や鶏の飲み水に利用している。

## 3 経営面の取組

### ① マーケティング

飼料米で育てられた鶏の産む卵は「こめたま」の商品名で通信販売等を中心に全国に向けて販売している。価格設定は高めでも味の良さと地域内で作付された飼料米を給与しているという「安心」感から固定客もつき、引き合いが増えている。

「こめたま」を使用したスイーツなど飼料米関連商品も開発している。消費者への理解促進と販売促進のために、直接販売ではポップなどで取組の紹介をしている他、イベントや展示会にも積極的に参加している。



## 4 取組の成果

### ① 飼料自給率の向上

輸入原料の価格高騰が続く中で、安定した供給が可能な国産飼料米の利活用に成功した。

平成24年は412戸の農家が781haの面積で飼料米の作付を実施。

全飼育鶏に20~68%の飼料米を配合した飼料を給与し、大幅な飼料自給率の向上を実現した。

## 5 地域社会への貢献

### ① 消費者等との交流

生活協同組合員との交流会への積極的な参加や地域の小中学生及び高校生の農場見学の受入を通じ、自らの取組について理解を深める活動を行っている。

### ② 地域農業の活性化

飼料米生産に広く取り組んだことにより、地域の休耕田が減少し、農地が有効に活用されている。

また、飼料自給率向上と地域の休耕田の活用という地元農業の復興にかけたこれらの取組に触発され、今後飼料米の作付に取り組みたいという農家が拡大するなど、地域農業の活性化に貢献している。

